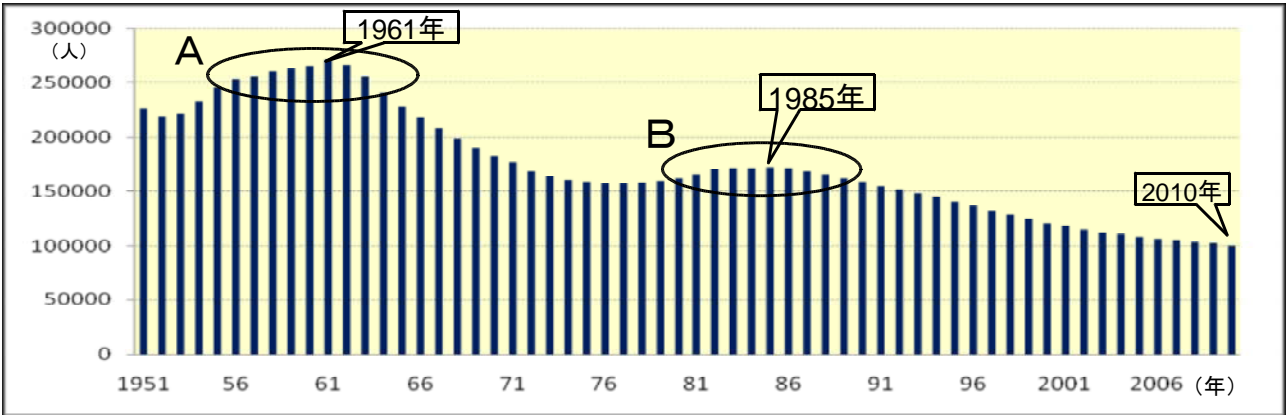


日本の人口と人口問題	()組 ()番	氏名
-------------------	--------------	----

博さんと康さんは、社会科の授業で現在の日本の人口問題について学習し、宮崎県の人口はどうなっているのか関心をもち、いろいろな資料を集めてみることにしました。

【資料1 宮崎県の小・中学生数の移り変わり】



博さんは、上の資料1を見つけた後、康さんと次の会話をしました。

博：1960年代と2000年代を比較すると、ずいぶん小・中学生の数が減ってきたことが分かるね。① 2010年の小・中学生の数は、Aの時期の半数以下になっているよ。

康：授業でも学習したように、宮崎県でも少子化が進んでいるということだろうね。

博：Aの部分の人数が多いのは、いわゆる「第1次ベビーブーム」ということなんだろうね。

康：そうだね。そしてBの部分が「第2次ベビーブーム」ということなんだろうけど、AとBには何か関係があるのかな。② Aのピークは1961年、Bのピークは1985年になっていて、24年間の間かくがあるけど…。

博：Bの人数が多いのは、③ではないのかな。

(1) 上の会話文中の下線部①についてくわしく見ると、2010年の人数は100179人、1961年の人数は271706人である。2010年の人数は、1961年の人数の約何%であるか。次のア～エから最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- [ア 30% イ 35% ウ 37% エ 40%]

記号	
----	--

(2) 上の会話文の③について、会話文中の下線部②と次の資料2をもとに、Bの時期の人数が多い理由を考えて、下の に書きなさい。

【資料2：平均結婚年齢の推移】

年	夫	妻
1970	27.6歳	24.6歳
1980	28.7歳	25.9歳
1990	29.7歳	26.9歳
2000	30.4歳	28.2歳
2010	32.1歳	29.8歳

(博さんの考え)

Bの人数が多いのは、

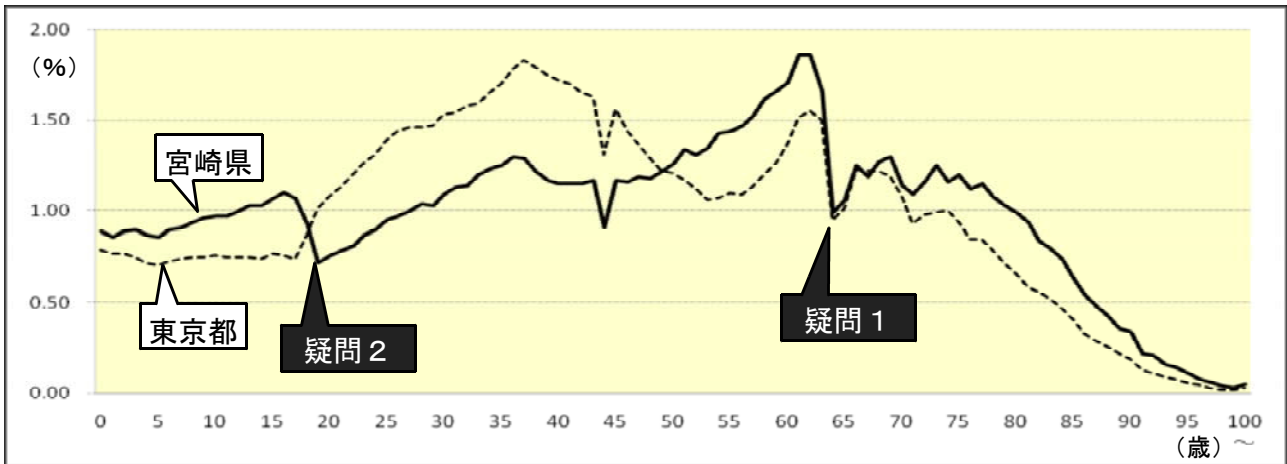
ではないのかな。

康さんは、これだけ少子化が進んでいるにもかかわらず「宮崎県は14歳以下の年少人口割合が全国5位（2010年）」という資料を見つけ、宮崎県と他の都道府県とを比較してみようと考え、日本で最も人口の多い東京都と宮崎県とを比較するために資料3のグラフを作成したところ、次の2つの疑問をもち、博さんと調べていくことにしました。

疑問1 なぜ、両都県とも、64～65歳の人口が極端に少ないのだろうか？

疑問2 なぜ、宮崎県では19歳になると人口の割合が減るのだろうか？
(なぜ18歳を超えると、宮崎県と東京都の人口の割合が逆転しているのか?)

【資料3：宮崎県と東京都の年齢別人口割合 2010年】



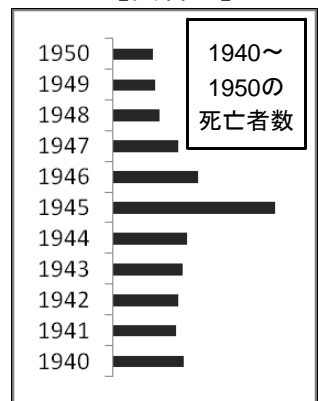
博さんは、**疑問1**について、右の資料4を見ながら「2010年に65歳の人、1945年に生まれた人たちである。この年は死亡者数も極端に多いが、これは（ C ）の影響なのではないか。」と予想しました。

(3) 右の【資料4】も参考にしながら、博さんの予想（ C ）に当てはまる歴史的なできごとを考えて書きなさい。

C



【資料4】



(4) 博さんと康さんは、**疑問2**を追究するため下の資料5と資料6を集め、その資料を読みとりながら仮説を立てました。2人がどのような仮説を立てたかを考え、下の に書きなさい。

(仮説)

【資料5：宮崎県の20歳の人口割合】

年度	20歳の人の割合	20歳の人が17歳だった時の人口割合
H18	0.84%	← 1.28%
H19	0.93%	← 1.25%
H21	0.98%	← 1.17%
H22	0.76%	← 1.13%

【資料6：宮崎県と東京都の比較】

項目	宮崎県(全国順位)	東京都(全国順位)
人口(H22)	1,135,233人(36位)	13,161,751人(1位)
事業所数(H21)	57,811(37位)	694,212(1位)
大学・短大・専修学校等の合計数(H22)	63(36位)	815(1位)
H22-H23の転入者数	20,621人(30位)	393,596人(1位)

※ 資料1は宮崎県「学校の現状」(平成22年)より、資料2は厚生労働省資料より、資料3・4・6は総務省統計局データより、資料5は宮崎県統計調査課データよりそれぞれ作成したものである。